

「物性科学研究教育助成基金」創設とご支援のお願い

東京大学物性研究所は 2024 年 4 月に「物性科学研究教育助成基金」を創設しました。これは東京大学基金制度を利用して、個人、団体、企業の皆様から幅広くご寄付を募り、物性研の研究教育活動を支えていただく試みです。すでに 2023 年度から開始している物性研の「量子物質ナノ構造ラボ(Q ナノラボ)プロジェクト基金」では、これまで培ってきたマテリアルズサイエンスとナノサイエンスを融合させ、量子科学・量子技術に革新をもたらすことを目指す研究活動への援助をお願いしてきました。今回の「物性科学研究教育助成基金」は、物性研の研究教育活動全般をご支援いただくもので、若手が主体となるプロジェクト研究や学生の海外渡航、さらには女性研究者を増やす活動が念頭に置かれています。

物質科学の歴史を眺めると、未知の現象や物質が発見され、その基礎的理解が何らかの材料開発に結びついたとき、社会に大きなインパクトをもたらし、世界が大きく発展してきたことが分かります。すぐに利益に繋がる応用研究も重要ですが、真にブレークスルーをもたらす発見は常に長年にわたる基礎研究の先にあり、一見無益に見える研究も将来革新的な材料や技術に繋がる可能性を秘めています。

そのような研究活動を維持していくためには、未来の物性科学を担う若手研究者や学生達が自由な発想に基づき、新しいことに挑戦できる環境づくりが重要です。知識を吸収しすぎて頭の固くなった年寄りには己の成功体験に引きずられがちですが、真っ白な若手は自分の興味と好奇心に従って未知の分野を切り拓くチャンスと時間を持っています。研究や実験は、主に国の予算や企業との共同研究経費によりサポートされますが、未知への挑戦や革新的な研究を試行する萌芽的な研究助成にはさらなる支援が必要となります。本基金はそのような若手の挑戦を援助するプログラムの創成に利用させていただく予定です。

物性研は女性研究者支援にも尽力しています。物性研究分野は女性研究者の比率が高いとは言い難く、社会的にもその倍増が求められるなか、物性研は柏キャンパス内の研究機関と協力して、女子中高生向けの「未来をのぞこう!」、女子大学生・大学院生向けの「やっぱり物理が好き!」のイベントを毎年開催し、理系進学への支援、物理や物質科学分野のキャリアビルディング・女子学生のネットワーク

づくりを支援してきました。また、研究者向けイベント「ISSP WOMEN'S WEEK」では女性研究者が互いの知識や経験を共有することにより、様々な問題対処や環境改善に取り組むネットワークづくりの一助となっています(<https://www.issp.u-tokyo.ac.jp/maincontents/fund/women-encourage/>)。本基金へのご支援によりこのような活動が継続して行われ、さらなる展開に繋がるものと期待しています。

本基金は皆様から幅広いご支援をいただきたいと考えておりますが、特に、かつて物性研で学び卒業された方や関係していた研究者の方には、是非とも後進のための援助をお願いしたいと思っております。成功を収められた方にはそれなりの、これからそうなる方にもそれなりのご協力をお願いできれば幸いです。本基金創設の目的のひとつには「物性研愛」を育てることがあります。「物性科学研究教育助成基金」および「Q ナノラボ基金」では、ご寄付を賜りました方々のご芳名を物性研本館エントランスホールに新設する「周期表銘板」にて、末永く顕彰させていただきます。詳しくはホームページをご覧ください。

(<https://www.issp.u-tokyo.ac.jp/maincontents/fund/>)

また、東大基金全体のホームページでは税法上の優遇措置や遺贈に関する情報があり、個別の相談にも応じてくれますので、併せてご確認ください。(<https://utf.u-tokyo.ac.jp>)

物性研は日本の物質科学のハブとして、今後も基礎研究の促進と物質科学の発展に寄与するとともに、未来の研究者を支えるべく着実に進んで参ります。皆様のあたたかいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

東京大学物性研究所長 廣井 善二



「物性科学研究教育助成基金」
—物性科学の基礎研究を促進し、
発展を支える基盤強化のために—

<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt182>